

星月夜・ チェンバロを楽しむ

2020/11/14 情報化研究会 梁田佳世子



2 本日の予定

- 自己紹介
- まずは一曲
 - **J.S.バッハ**：平均律クラヴィーア曲集 第1巻 前奏曲第1番ハ長調 (BWV 846)
- チェンバロとは (外観・内部構造)
- 二曲続けて
 - **G.F.テレマン**：ファンタジー ヘ長調 TWV 33:5 - ヴィヴァーチ
 - ラモーン：**La Livri**
- 私の楽器
- 二曲続けて
 - **F.クープラン**：クラヴサン曲集第2巻第6組曲 変ロ長調：神秘的なバリケード
 - スカルラッティ：ソナタ 二短調, **K.9, L.413**
- チェンバロで表現するとは
- 最後の曲
 - **J.S.バッハ**：ゴルトベルク変奏曲よりアリア
- 本日演奏の作曲家 (資料)

3 チェンバロとは（外観）

- 外観：グランドピアノに似ています（1～2段の鍵盤、ペダルはなし）



ヨハネス・ルッカーズ作（1627年）
フレミッシュチェンバロ



パスカル・タスカン作（1788年）



シュペアハーケ作
モダン・チェンバロ（1979年）

4 チェンバロとは（内部構造）

- ピアノはハンマーで弦を叩きますが、チェンバロは⑥のジャックについている爪で弦をはじきます。ギターに似た音がします。

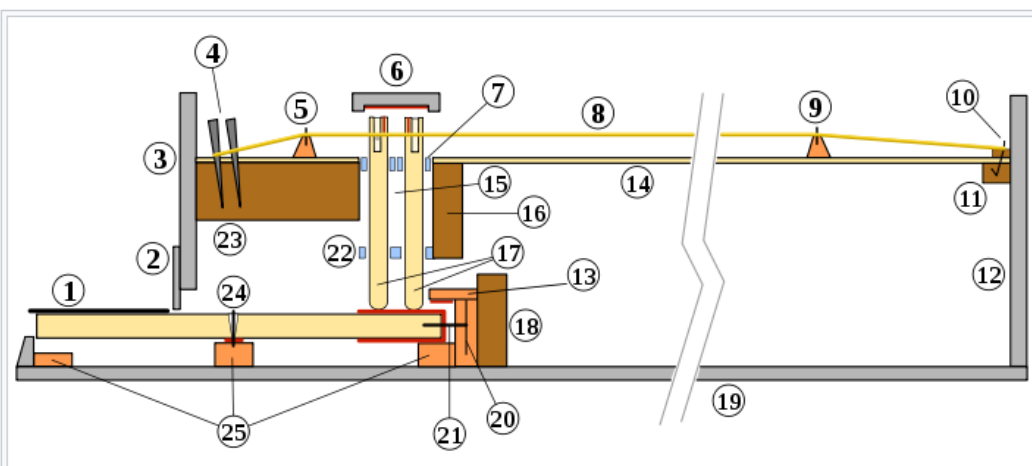


図1: 8フィート2弦の一段鍵盤チェンバロの概念図, (1) 鍵 (キーレバー), (2) ネームボタン, (3) ネームボード, (4) チューニングピン, (5) ナット, (6) ジャックレール, (7) アッパー・ガイド, (8) 弦, (9) ブリッジ, (10) ヒッチピン, (11) ライナー, (12) ベントサイド/テール, (13) オーバーレール, (14) 響板, (15) キャップ, (16) アッパー・ベリレール, (17) ジャック, (18) ローワー・ベリレール, (19) 底板, (20) ラック, (21) ガイドピン, (22) ローワー・ガイド, (23) レストブランク, (24) バランスピン, (25) キーボード・フレーム

- ①鍵盤を押す→⑥ジャックが上に持ちあがるその時⑧の弦がはじかれる
- 弦はめったに切れることがないのですが、ジャックの爪はたまに折れます。折れたら新しい爪に取り替えます。
- ピアノは鍵盤を強く押すと大きな音が、優しく押すと小さな音が出て強弱をつけることができますが、チェンバロははじく楽器なのでピアノのような強弱をつけることはできず、別の表現が必要です。
- ピアノは主に専門家が調律をしますが、チェンバロはたいてい演奏者が自分で調律をします。④のピンを専門工具で右か左に少し回し、ちょうど良い音になるようにします。

5 私の楽器

- 河合楽器製作所RS-185（1986年製）
- ルッカーモデル
- 8ft、4ft各1、8ftにバフ（リュート）ストップ
- トランスポージング
- 牛骨貼鍵盤、49鍵盤
- 最大長185cm、最大幅75.5cm、重量43kg

6 チェンバロで表現するとは

- ピアノとは異なる楽譜
 - 強弱記号がない。表現は自由
- 大きい音を出したいとき
 - カプラー（二段鍵盤の場合）で大きくする、引っ張る、乗せる、短めに切る、装飾音を入れる・・・目立たせる
 - 強く弾くのは**NG**なんです。
- 小さい音を出したいとき
 - **4**フィートだけで弾く、上の鍵盤で弾く（二段鍵盤の場合）

7 演奏曲の作曲家たち

- ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685-1750）
ドイツの教会音楽家、作曲家。オペラ以外の多種の曲を手掛けた。オルガンの名手として、新設楽器の鑑定等も行っていた。20人の子どもがいた。
- ゲオルク・フィリップ・テレマン（1681-1767）
ドイツの作曲家。クラシック音楽で最も多く作曲した作曲家としてギネス世界記録に認定されている。作品の予約販売や雑誌の楽譜連載で続きを買ってもらおうという商売上手な一面があった。
- ジャン＝フィリップ・ラモー（1683-1764）
フランスの作曲家・音楽理論家。オルガニストの父を見て育つが、法学を学ぶ。しかし教会オルガニストを歴任し、その後オペラ作曲家に転向する。

8 演奏曲の作曲家たち

- フランソア・クーブラン (1668-1733)
フランスの作曲家。オルガニストの父を10歳で亡くすが、父の後を継ぐべく国王のオルガニストから指導を受ける。25歳で国王のオルガニストに就任。クラブサン（この時代のオルガン以外の鍵盤楽器の総称）の指導にもあたる。
- ジュゼッペ・ドメニコ・スカルラッティ (1685-1757)
イタリアはナポリ生まれ、スペインのマドリード没。音楽一家に育つ。15歳でナポリの教会付き作曲家兼オルガン奏者に任命された。その後、ローマに亡命していたポーランド王妃の音楽監督を行ったり、ポルトガル王から王室礼拝堂の音楽監督に命じられたりした。